



## 発行

鎌倉市老人クラブ連合会  
 発行人 大久保安夫  
 編集人 都筑 健一  
 門田 京蔵  
 山本 照子  
 〒248-8686  
 鎌倉市御成町18-10  
 鎌倉市老人クラブ連合会  
 (愛称・みらいふる鎌倉)  
 ☎(0467)61-3930



本覚寺山門  
 撮影・伊藤 昌平

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212

今回の「かまくらびとに聞く」には、二〇〇七年日本芸術院賞を受賞された大津英敏氏にご登場いただいた。大津氏は「家族の絆」をテーマに次々と大作を発

表し話題を呼んでいる現代洋画家である。氏の絵からは優しさと温もり、ひいては日本人の心や文化が伝わってくる。長女香織さんをはじめとする「家族」を描



## かまくらびとに聞く

洋画家・多摩美術大学教授 造形表現学部長

## 大津 英敏 氏

た香織さんをモデルにした二〇〇号の大作(タイトル「CITE」)の前の大津氏である。

(九月二十七日

対談者 門田)

くことが氏のライフワークなのである。

取材当日は第七十五回独立展(十月開催)に出展する作品の制作中であったにもかかわらず、快く取材に応じてくださった。まだ六〇パーセントの仕上がりだったが、ポンヌフ橋をバックにした



みらいふる鎌倉  
 MIRAIFUL KAMAKURA

▲平成19年11月から「みらいふる鎌倉」に

いきいきと活動し、  
 明るい未来の光が降り注ぐ老人クラブへ

鎌倉市老連 新愛称・シンボルマーク決まる!!

変わらなくちや老人クラブ、何年か前から言われてきたフリーズですが、鎌倉市老人クラブ連合会では、今年二〇〇七年を改革の年と定め、従来の老人クラブのイメージの刷新を図るため、新しい

上記の新しいシンボルマークにも、①手のひらに光が降り注ぐイメージ②老人クラブのみなさんの手の中に明るい未来の光が降り注ぐという意味を持たせました。

愛称を募集するに至りました。八月十日から九月十二日と短期間ではありましたが、全国から二五二通の応募が寄せられました。番組企画部会を中心に、一次選考、二次選考を行い二十通までしぼり、各方面の著名人に選考をお願いして行われた三次選考を経て、新愛称「みらいふる鎌倉」に決まりました。



愛称選考委員会のもよう

愛称選考委員会 株鎌倉ケーブルコミュニケーションズ代表取締役社長・末澤広治/鎌倉美術連盟会長・蓼沼誠一/南ハミングバード代表取締役・浜田淑子/財鎌倉市芸術文化振興財団理事長・鎌倉文学館長・山内静夫/鎌倉市老人クラブ連合会会長・大久保安夫/株博報社編集部長・佐井カオリ/(敬称略・順不同)

## やまもも59号主なもくじ

- 2面 大津英敏氏インタビュー
- 3面 鎌倉元気のスヌメ
- 4面 鎌倉ゆかりの人・田中絹代
- 5面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 9面 鎌倉今昔・お十夜のいわれと今昔
- 10面 鎌倉の昔の小学校の思い出
- 12面 鎌倉散歩、やまももさん

鎌倉市の人口176,193人 高齢化率(65歳以上)全市25.5%(地区別※ 鎌倉地区7.8%、腰越地区4.4%、深沢地区4.9%、大船地区5.5%、玉縄地区2.9%) 平成19年9月末日現在 ※市全人口に対する割合  
 鎌倉市老連会員数4,001人(地区別 鎌倉地区1,416人(35.3%)、腰越地区465人(11.6%)、深沢地区706人(17.7%)、大船地区827人(20.7%)、玉縄地区587人(14.7%) 平成19年9月末現在  
 ★鎌倉市老連ホームページアドレス <http://www.kamakura-rouren.jp/> ★メールアドレス [info@kamakura-rouren.jp](mailto:info@kamakura-rouren.jp) ©数字は住民基本台帳をもとにしています

福岡県大牟田市で少年時代をすごしたのち東京芸術大学油画科（山口薫先生に師事）を卒業した大津氏は、独立展に出品を重ねるなど、意欲的な創作活動が続ける。一九七〇年、二度目の独立展で初めて『マリシリーズ』を発表した。寝姿をした人物の上方に、蹴り上げたような顔の大ききぐらゐの球状が描かれている。

——先生にとってマリとはなんだったのですか？

大津「マリはなにかを象徴するものではなく、少年時代を懐かしむ、郷愁を感じさせると同時に、絵画の技術上、構図が非常に引き締まりやすいという画面を含んでいるのです。」

マリシリーズは、少年時代にみたサーカスの人たちの姿と、東京の街を組み合わせて現代風に表現された、いわば幻想的な作品群である。

一九七九年から家族とともにフランスへ渡った大津氏は、パリで過ごした一年半で、「家族の絆」を考えるようになる。画家というものは、長い間同じ題材で描いているとテーマにあきてマンネリ化する。帰国後、何を書こうかと考えた時、パリで一緒に生活した家族、そしてその代表で子どもをモデルに描くことが浮かんだ。一九八二年『少女・毬歌』（画面中央に月のような球が浮いている）を発表、これがマリシリーズとの決別の一枚となり、いわば、制作の歩みの分水嶺、『少女シリ

ーズ』本格スタートとなる作品となった。その後、発表された『スアロ』で第二十六回安井賞（一九八三年）を受賞する。

大津「安井賞展に推薦された時、銀座で個展を開いていたので、一度は辞退しました。個展に穴が空いてしまいますからね。しかし、一日で返却してくれるというので一点だけ出展したところ、事務局から電話がかかってくる、『大津さんの作品が安井賞に決まりました』ってね。驚きました。帰国してからテーマが変わったことと、子どもをモデルに描くことが当時めづらしかったことから、審査員の受けもよかったのだでしょうね。」

当時を振り返りユニークな裏話を語る大津氏の瞳は、少年のような輝きをはなつ。『スアロ』を境にして、制作する作品のほとんどが息子を含む子どもたち三人の絵となる。長女香織をモデルに十年、次女英香（あやのか）をモデルにして近年長女香織を再びモデルとし、年月を重ねる。子どもたちを描くことは「家族の大事さ」の表現でもあるのだ。大津「家族という存在に対し、

単に自分が興味を持っているから描くことも大事ですが、それと同時に画家というものが社会においてどういう役割なのか、存在の意味があるのかを考えます。」

画家とは、その時代時代の背景を切り取り後世に伝える存在でなければならぬのではないかと自覚しているところだという。人間文化の歴史を彩ること、人間の歴史を描き残すことだ。約三十年の間描き続けた娘たちの絵、そしてこれから後、子どもが結婚し孫ができて、終生のテーマとしてひとつの大きな『家族』を描き続ける。

鎌倉へは結婚を機に移り、住み始めてから三十七年になる。若大の先輩からアトリエ付の空き家（大町）を三年間という期限付きだが借りることでできたからこそ鎌倉にきた。このことがなければ鎌倉に来てはいなかったという。それから緑豊かな二階堂の谷戸に移り、そこも手狭になったので浄明寺へ、そして今は海岸に近い笹目の住人となっている。

大津「鎌倉は敷居が高いと思っていました。禅宗で育った街だからなのか、意外と地味な生活をしていて、あまり見栄っ張りな生活はしていません。私自身、このシンプルライフが好きで、もちろん子どもたちも気に入っています。」

大津氏が生まれた炭鉱の町とは都市の歴史の違いはあるものの、互いに有明海、相模

### 大津 英敏氏 プロフィール

おおつえいびん 1943 年生まれ、福岡県大牟田市出身。東京芸術大学卒業。鎌倉市在住。1979 年家族とともに渡欧、1981 年に帰国。安井賞、宮本三郎賞、損保ジャパン東郷青児美術館大賞、日本芸術院賞など受賞多数。毎年国内で個展を開催。主な著書に「大津英敏画集」（'86 求龍堂）、「大津英敏画文集—家族へのまなざし」（'98 日本経済新聞出版社）、「大津英敏展—伝えたい気持ち」（'05 損保ジャパン）。現在、独立美術協会会員、多摩美術大学教授・造形表現学部長。

湾を臨み、穏やかな感じが似ていることから、親近感を抱くのだそう。

大津「たぶんこれからもずっと、ここで過ごしますね」と嬉しい一言をいただいた。大小三十点近い作品が並ぶアトリエの壁面に「一日一筆」と書かれた紙が貼られていた。

大津「透明感がでるように、そしてまるで宝石のような輝きを放つかのように表現するには、毎日少しずつ絵の具を薄く塗り重ねることが大切なのです。」

これは自分への「戒め」だと本人は語るが、毎日少しずつ家族への愛情を筆にのせているのであろう。

——今後はどのような方向へ行かれるのですか？

大津「そうですね、これから鎌倉の風景を少しずつ定期的に、テーマを決めて、人が気がつかないような鎌倉を描いていきたいなと思っています。一カ月に一枚は書くぞ、と決意を立ててね。これを十年、二十年やると、鎌倉の風景の画集がた

せるかもしれないですね。」

二つの新聞

### 日本芸術院賞受賞記念 大津英敏展

—受賞作「朝陽巴里」と日本の風景画—

平成19年12月19日(木)～12月25日(火) 銀座松屋百貨店にて開催

大津「透明感がでるように、そしてまるで宝石のような輝きを放つかのように表現するには、毎日少しずつ絵の具を薄く塗り重ねることが大切なのです。」

これは自分への「戒め」だと本人は語るが、毎日少しずつ家族への愛情を筆にのせているのであろう。

——今後はどのような方向へ行かれるのですか？

大津「そうですね、これから鎌倉の風景を少しずつ定期的に、テーマを決めて、人が気がつかないような鎌倉を描いていきたいなと思っています。一カ月に一枚は書くぞ、と決意を立ててね。これを十年、二十年やると、鎌倉の風景の画集がた

せるかもしれないですね。」



## 極楽寺若葉会

## 月影地藏堂周辺の清掃活動

内田 一男

私たちのクラブは、極楽寺若葉会と称し創立して四十一年目を迎えております。

所在は江の電極楽寺駅から近く馬場ヶ谷戸と西ヶ谷戸二つの自治町内に属し、会員は現在ここに居住する人たち四十一名(対比男一対女三)で活動しています。

年齢層は九十八歳から六十二歳、平均年齢七十七歳と高齢化の範囲に入っています。

このような環境のなか現在会が存続できたのは、地域のひとの深いふれあいがあったからだと思っています。それは、地域に伝わる昔からの仕来りや行事を、地元の人と会の先輩の方が



受け継いできた貴重な贈り物と考え、現在も会の運営に反映させております。

その一つに「老人でもやればできるのだ」と今から十五年以前に当時の会長の発案で、社会奉仕活動として地元の月影地藏堂内と周

辺公道の清掃作業を始めたのが契機となり、毎年定例は二回(六月・九月)臨時は状況により数回と定めて行っております。この作業には毎回二十数名の会員が参加してくれ、なかには高齢の人、多少歩行が不自由な人もいますが、鋸で枝切りや鎌をもって草刈りと一生懸命に作業する姿をみて「まだまだ元気でやるぞ!!」という意気込みを感じました。

毎回作業終了後は綺麗になった境内を眺め、堂内でお茶を頂きながら反省会、その会話のなかで「このお地藏様が地域と私たちを何時もお守りしてくださるのだから、お掃除などしてお返しをするのが当然」会が

分身体を動かして健康増進に励んで下さるようお勧めしたいと思います。



存続するかぎりこれから先も続けたいと会員皆さんの心強い言葉があり感謝して、これからも頑張っていきたいと思う昨今です。



鶴岡八幡宮源平の池を望む広場では、毎日早朝六時十分ごろからは源氏の池を眺める藤棚のあたりで遠近の方々も「ヤアおはようございます」から始まり、氣候の話、行事の話、地域のニュースの話、さまざまな話題の交換をし、ひとしきり話が弾みます。西は巨福呂坂中頃、北辺は十二所、朝比奈峠の近くから、さらに海岸方面では由比ヶ浜地区、名越方面からも三々

## 雪ノ下寿会

## ラジオ体操のつらつら

都筑 健一

五々集まり始めます。六時三十分、ラジオ体操第一、第一と進んだあとはストレッチ体操で号令と共に柔軟体操が二十分間行われます。一汗かいた後は身体と両腕を高く、大きく屈伸させて深呼吸でしめくります。

三月初めから十二月中旬まで、日曜日と雨天は自然休日となり、夏期には地域

の小学生が参加、保護者などが付き添い、一段とにぎやかになります。かつて日刊紙の取材を受け、この度はケーブルテレビからも取材されて画面に登場し、タウンニュースの紙面も飾りました。鎌倉の鶴岡八幡宮という環境に恵まれて、自然の緑多き神域で過ごすことができるのは幸せと思います。どなたでもご随意に、明日からでも結構、思う存



# 「私は映画と結婚したのよ」

― 昭和の映画史を飾って  
見事に生きぬいた田中絹代 ―



伊豆の踊子



愛染かつら

昭和の映画史をかざった三大女優は、田中絹代・原節子・高峰秀子の三人にちがいない。

絹代は美女というより、可憐な庶民的風貌が取り柄の人だ。きつぱりと退場した原の生き方とちがって、絹代の映画への情熱は他の映画人にみられぬ異彩を放つ強い決意だった。

絹代は明治四十二年（1909）十二月、父・久米吉、母・ヤスの四男四女の末娘として下関で生まれる。母の本家は平家の末裔で裕福だったが、大番頭の久米吉と結婚したが、絹代二歳の時父の死で平穩な田中家の家運は傾き生活は暗転する。寡婦の商売もままならず、四歳の時母の兄とともに大阪の天王寺に一家は居を移す。

絹代は天王寺小学校に通いつつ、琵琶少女歌劇団に入り、舞台では主役級の活躍で家計を助け後世の彼女の下地が作られた。その楽天地で映画に親しみ、栗島すみ子にあこがれ女優志願に傾く。十三年家族の理解をえて、なんとか松竹下加茂撮影所に入所できる。將軍の飼犬の腰元役でデビュー、早くも二本目で新進監督の清水宏が「村の牧場」で準主役に抜擢する。四本撮った時震災より復興した蒲田撮影所に、熱い視線を絹代にそ



『ある映画監督の生涯・溝口健二の記録』

そく五所平之助・清水監督に連れられて移籍のため上京する。ところが改めての面接で城戸所長は、絹代のあまりの幼さと目立たない平凡な少女ふりに難色を示したが、ねばりぬいて在籍許可をひき出した。

城戸の主張する新路線は、新派悲劇調を脱し、日常生活を題材にした小市民向きの作品をつくるというもので、絹代の純情可憐さは、大衆がどこでも見かけると感じの女優であって、彼女は多くの監督に重用される。

昭和二年の二十八本目の五所の「恥しい夢」が二人の出世作となった。清水と五所はそれぞれ絹代で七、八本撮っている好敵手恋敵である。この映画の成功祝賀会の夜、待ち伏せしていた清水は絹代に求婚、彼女は恋愛感情がないまま受けざるをえなかった。これを聞いて激怒した城戸は表向き婚約、同棲は認めるが結婚は許さないという苦肉の策をとる。

翌三年は人気トップの鈴木伝明とのコンビを中心に十五本主演をこなし、四年早くも幹部に昇進、人気投票も一位の座を確保する。

同棲直後から清水の浮気、絹代も清水に縛られず天衣無縫に行動し、大男は小悪魔のような女房をもてあました。二年後夫婦喧嘩の末、清水の面前で座敷に決別の放尿をしたという武勇伝は絹代自身が語っている。

六年、五所は日本初のオール・トーキー「マダムと女房」に絹

代を起用する。絹代は自分の下関訛りを心配したが、「あなたつ」という甘ったるい発音も魅力となつて流行語にもなった。九年大幹部となり、さらに五所は永年の念願の「伊豆の踊子」を手慣れた独自の手法が駆使でききる無声映画で撮り、サイレント末期の傑作として映画史に残る作品に仕上げた。

さてこの年一生の「付き人」となり、絹代の死まで面倒をみた仲摩新吉と出合う。彼は絹代より七歳下、大部屋所属の俳優志願だったが、色恋を抜きにして絹代を守り、田中家の人となった。新吉の思い出が新藤監督に語られ絹代の伝記も残されたのである。

十二年松竹は蒲田から大船に移り、絹代は鎌倉山旭ヶ丘に絹代御殿と呼ばれた豪華な日本家屋を建てる。左右は藤原義江宅、近衛文麿の別邸である。この御殿に城戸所長は一時しばしば通った。この頃七歳上の栗島すみ子引退、モダンな男女優が続々進出し、二十八にして人気のかげりを感じはじめ

ところ。ところが十三年、手持ちの看護婦役であまり気のりのしなかった「愛染かつら」が空前の大ヒットで人気は一気に挽回し、「旅の夜風」は全国に吹きまわった。すれちがいの先駆的メロドラマである。この映画の続篇騒ぎで溝口の秀作「残菊物語」には絹代は出演できなかった。

十五年、溝口は再び芸道物「浪花女」で念願の絹代の出演となる。厳しい注文に応ええた絹代は、女優として一生映画に殉ずる決意を深め、また執拗なまでの芸術的完全主義者の溝口の姿勢に感奮する。そして同類的な因子の共有を感じとり、溝口に師事する心が固まる。

十九年には木下恵介の「陸軍

で出征する息子の隊列を追い、母親の子を思つ心情を反戦の意を込めて見事に表現した。

戦後は「女優須磨子の恋」（溝口）、「結婚」「不死鳥」（木下）、「夜の女たち」（溝口）、「風の中の牝鶏」（小津）と佳作が続いて、二十二、二十三年に発足した毎日映画コンクールの主演女優賞を連続受賞し、演技派女優として評価される。

二十四年に近隣の見晴台の敷地三万坪・建坪二百坪の元司法大臣岩田宙造の別邸が売りに出され、日本一の弁護士の家を買ったのは日本一の女優の私以外にない」と購入にふみきる。日頃言葉は誰にも丁寧すぎる絹代だが、気性は人一倍高く強烈な上昇志向の持主だ。



世界に認められた老練の演技力 (『サンダカン八番娼館 望郷』)

ところがこの年の秋、日米親善大使として三カ月ハワイ・アメリカを廻り帰国、歓迎パレードでアメリカ仕込みの派手な衣装、態度でマスコミから思いがけないバッシングを受け、得意の絶頂から失意のどん底に落ち、新居に閉じこもる。

そんな絹代に一途に恋心をいだく溝口は「お遊さま」（51）、「武蔵野夫人」（51）と懸命の救援だが文芸大作は二人にとって得意の分野でなく、溝口の再起についても云々された。

そこで二人は一切の色気・気取りをかなぐり捨てて永年温めてきた「西鶴一代女」にとりかかる。溝口は気性激しく運命に苦闘する女を描くのは、「浪花悲歌」「祇園の姉妹」以来手中のものである。「西鶴」では若き

日には美しかったヒロインの老醜を残酷なまでのリアリズムで追及し、日本の様式美に満ちた画面の展開で海外の注目を浴び予期せぬヴェネチア国際映画祭での受賞となる。

西鶴撮影中の京都で偶々会った新藤監督に「なんとかなりませんが」と本気とも冗談ともいえぬ口調で、絹代への思いのたけを告白したという。

しかし翌年は自信の「雨月物語」を携え二人はヴェニスに赴き金賞はなく銀獅子賞を獲得、祝福のうち二人はホテルで結ばれた。さらに翌年三たび挑戦受賞する「山椒太夫」撮影中の京都でも絹代の宿に溝口はしばしば現れた。

当初絹代は溝口の少年のようにはいかむ愛の告白に答えられなかったが、当時から彼女は、先生は私の役の上の女性にほれていのですが、女としては大変嬉しいお言葉です」とあり、しかし「正直にいつて先生ご自身については面白くもなければなんでもない、芸術芸術それは結構ですがユーモアがございませんでしょ」と、夫としては問題にしていなかったと思われる。

「雨月物語」の年、溝口は反対していたが、小津・成瀬・木下等の応援を受けて念願の監督業に挑戦、演技に感服しきりの森雅之の出演を得て「恋文」を完成し好評を博した（十歳以上）。

翌二十九年溝口と最後の作品「噂の女」があるが、あとの三作には絹代は呼ばれず口惜しかった。「噂」の翌々年早くも溝口が白血病にて死去、絹代は夫を失った気持であり、好敵手から解放された気分ともいふ。

このあと「流れる」（成瀬・56）「異

母兄弟」（家城・57）「彼岸花」（小津・58）「おとうと」（市川・60）と絹代らしい役柄で光彩を放つが、彼女の生涯最後の輝きは、「楳山節考」（木下・58）と「サンダカン八番娼館・望郷」（熊井・74）の老婆役である。ともに各年度のキネマ旬報ベストテンの第一位にランクされた。

「楳山」では健康な前歯を四本取ってまでの役作り、「望郷」では七十九歳の元からゆきさんが天草の郷里に帰り廃屋の如き家に住むお・サキに扮した。この映画の最後、圭子（栗原小巻扮）からもらったタオルを抱きしめ、おサキが手放して号泣するシーンは、絹代の生涯の演技を象徴するかの如き畢生のもので、私はいつも感動し涙なくして見終えることができない。

七十四年度の国内のすべての賞を受賞し、ベルリンでは最優秀女優賞の栄誉も受ける。「これで先生（溝口）におみやげができました」と語った。

このあと数本の脇役、テレビにも出演、体が弱ったと感じた時には「新ちゃん、つるや（由井ヶ浜通り）の鰻丼持つてきて」と山まで運はせた。この前後なぜか三崎の諸磯の突端に家を建て暫時住んだりしたが、五十二年一月体調を崩し順天堂に入院、脳腫瘍で三月二十一日永眠。六十七歳だった。城戸が葬儀委員長で築地本願寺には五千人が参列、城戸も一カ月後に絹代を追った。

彼女の墓は田覚寺松嶺院、甥の小林正樹と並び佐田啓二を背後に、墓の絹代の若き日の顔のレリーフが可愛い。



西鶴一代女

## みらいふる鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報のコーナー

### 平成十九年度 功労者のつどい開催



倉のジャンパーを脱ぎ、  
「みらいふる鎌倉」ジャンパーに衣装チェンジ。会場を湧かせました。

続いて表彰状の贈呈が行われ、優良老人クラブ二団体、十年在職功労会長六人、五年在職功労会長四人、特

十一月九日、鎌倉生涯学習センターホールで、一五〇名出席のもと、平成十九年度鎌倉市老人クラブ連合会功労者のつどいが開催されました。

第一部では、大久保会長があいさつで愛称改正について触れ、「従来のイメージを脱皮して一緒に新たな歴史を作りましょう!」と呼びかけ、ゆめクラブ鎌



別表彰(百歳に達した会員)三人、一般会員功労者六十八人が表彰の栄に浴しました。来賓祝辞、紹介ののち、受賞者を代表して岩瀬

#### 大久保 安夫氏 (鎌倉市老連会長) 神奈川県知事表彰を受賞



この度、鎌倉市老連会長・大久保安夫氏が、十一月十四日神奈川県老連功労者の集いにおいて、平成十九年度神奈川県知事表彰(老人クラブ活動に対する貢献)を受賞されました。おめでとつございます。

武井栄子氏が謝辞を述べました。次に大久保会長より各地区長に「みらいふる鎌倉」の旗

の授与が行われ、第一部は終了しました。

第二部は、一龍斎春水氏の講談で、美しい声と迫力の語り口に客席は引きつけられました。時折笑いも起こり、祝典にふさわしい華やかな時が過ぎました。

最後に、青山総務部長の三本締めで幕を閉じ、「みらいふる鎌倉」は新生の第一歩を踏み出しました。

今年は大船第一・大船第二・玉縄地区から31点の力作が展覧されました!

### みらいふる鎌倉作品展



市老連PRと地区活動紹介コーナー



作品展示コーナー

十一月六日から十二日の七日間、JR鎌倉駅地下道「ギャラリー50」で、作品展が開催されました。

今回は大船第一、大船第二、玉縄地区の活動をパネルで紹介するとともに、同地区の会員の力作がズラリと並びました。

### 2つのグラウンドゴルフ大会



スポーツ部 沖田 俊昭

十月十五日、第八回横三ブロックグラウンドゴルフ大会が三浦市で開催されました。選手一五〇名が揃い、鎌倉市からも三十名が参加し、大活躍しました。

女子の部では中央和光会の広田喜代子さんが、男子のスコアを上回る二十四で優勝、壁谷早苗さんが四位で奮闘。男子の部は高橋恒男さんが準優勝でした。

この大会に続き十八日は悪天候が予想され決行が危惧されましたが、天の恵み、われわれの願いが通じて素晴らしい秋晴れのもと、笛田運動公園で横浜市栄区シニアクラブ連合会との第一回親善交流大会が開催されました。

人数が揃うかと双方ともに気をもんでいましたが、合計一十二名の選手は九時半には見事全員揃いました。十時の開会には石渡市長も駆けつけられ、市の小川部長が始球の球を打ちま

した。

競技は途中三十分の休憩を入れてA・B班に分かれ二ラウンドずつ行いました。

その中で、なかなか成し難い一ラウンドで三つのホールインワンのダイヤモンドを達成したのが深沢の馬見塚久子さんと、見事女子の部の優勝を飾られました。準優勝は大船第一の成瀬澄子さん。三、四位は栄区の方に譲り、五位は十五日に引き続き鎌倉第一の壁谷早苗さん八十四歳、立派なものです。

男子の部は残念ながら六位までは栄区の皆さん。これは今回スコア付けを栄区方式にしたため、慣れない記録の仕事をした鎌倉の優秀選手十二名、女子二名)にお願いし、試合に集中できなかったためです。栄区がカード方式を採用していなかったため譲歩した結果でした。



第1回親善交流大会で見事優勝した都築 丞一さん(栄区)と馬見塚 久子さん(鎌倉市)を囲んで

試合が運営できるのも、試合の前後資器材の運搬設置に汗して下さるスポーツ部の皆さんのお骨折りに



大会の成功を祝い、がっちり握手する栄区老連高山会長㊦と鎌倉市老連大久保会長㊧

いつも頭がさがります。こうした皆さんのお蔭で大会が開かれ得ることを忘れてはなりません。

偶々この大会の朝、水泳の木原光知子さんの五十九歳の訃報が知らされました。彼女は「老いることは怖くない。目的がなくなるのが怖い。何でもいいから好きなことを見つけたことが大事」といわれましたが、グラウンドゴルフは晴天のもと体を動かし、大勢でワイワイと騒ぐ願ってもない交流の場です。上手、下手は関係なし、未経験の方も是非グラウンドゴルフの面白さを味わってみて下さい。

## 第43回老人大学寿講座開催

七月二日から四日間、恒例の寿講座がレイウエルで開催されて、延べ一、三四八人が梅雨空のもと熱心に聴講された。

昨年「川端康成の作品と生きざま」で好評を得た尾島政雄氏が、「小島元市長が良寛会の会長でもあったし」と、「良寛さんと一茶の生きざま」を熱演。二人は偶々同郷の人、この二人を並べて語るのは恐らく私をはじめとこれは講演後の話だったが、この対比はユニークで大いに意味があったのだ。

良寛については、われわ



講師・文芸評論家 尾島 政雄 氏

### 「良寛さんと一茶の生きざま」を中心に

過ぎなかったと良寛の話が十一時まで続き、残り時間で一茶はどうなるのかとハラハラ心配させられた。

これは多少知っている。彼は生涯寺を持たず清貧の生涯を送り、七十歳にして貞心尼との心温まる交流もあってほっとさせられる。しかしこれも数年のやすらぎに

尾島氏は最後四十分で良寛の生活を下敷にして、両極端の一方の一茶の熾烈な家族関係を語る。俳諧の師匠として各地を廻るかたわら、継母と異母弟を相手に長びく財産分配闘争、五十二歳から二回の結婚・死別・離縁。三人の子の死去、六十二歳にして子づれの三十歳下の女性を自ら探し出し結婚、火事で家屋消失、そして彼の死後に生まれた娘やたのみが成人した。

いや、一茶の万人に

愛され詠われている名句から察せられぬ激しい人生を送った人だった。尾島氏はわざと狙って短い時間で濃く一茶を印象づけたようである。終わってから「私も実は一茶の方が好きなんです」と語った。

私もいくつかの一茶の有名な句を口ずさむことはできるが、彼の人生を全く知らなかったのも、もっと詳しく知りたくなった。幸いわが家に途中までしか読まなかった田辺聖子の「ひねくれ一茶」がある。すぐさま読み始めただけに読了、田辺は短詩文芸にも強い人で、この本は第二十七回吉川英次文学賞を受賞している。

一茶の万句を絶妙の場所に散りばめ、計算高く我執強くむき出しの闘争心を誇示して引かない一茶を、そして酷薄な世の中を渡り歩いてきた一茶の地金を濃密な存在感をもって見事に描ききっている。彼女の代表作たる作品で一茶が十分わかった感じである。

二日目は昨年急病で中止になった久能靖氏の「年金と皇室のお話」、この時期年金騒動でわれわれ相当の知識が与えられているので、皇位継承の話などもっと週刊誌等で発言されているような突込んだ話も聞きたかった。

三日目「世界遺産と鎌倉」は少々お話が固く感じた。

最後は長らく続いている「うたこえともしび」の出演講座。四年ぶりの指導者が加藤晴雄氏の来場で「千の風になつて」で最初と最後をしめくり、聴衆参加講座としては一応は楽しいが、毎年全く同じパターンでは少々知恵がないようだ。



とに感謝ということに尽きる。

今回も演題と講師の選択のむつかしさを痛感する。折角の講演なのだから、聴いた人があとあとの自らの生き方に少しでも役立つようなテーマが折り込まれることを心掛けたい。(K)



★「ひねくれ一茶」講談社文庫

★田辺聖子全集第十八巻

★中央図書館に三巻の大活字本あり

## ケーブルテレビ番組の企画部会の発足

二〇〇七年を変革の年として「変わらなくちゃ老人クラブ」をテーマとして老人クラブのイメージを一新しようと番組企画部会が発足しました。

地域に根ざした高齢者がその経験と職能を結集し、JCN鎌倉の協力を得て行動力に弾みをつけようというものです。高齢化が進む会員の減少に歯止めをかけ、さらには団塊の世代の異なった視点や意見など、清新の気を吸収して「鎌倉元気のススメ」を行動に移

そうとの意気込みを社会に示したいと思えます。各部の活発な活動を推進し、意欲ある人たちの参加を求めて専門知識を活用し、各種のイベントにも大いなる変革を実施したい、高齢者のパワーを発揮できる場を開発したい、このためにネーミングをより時代にマッチしたものにと、市老連と関連の深い学識者を招いて応募された名称を審査し、成案を得ましたので理事会の承認を経て総会で意見の一致を見ました。



『みらいふる鎌倉』……生き生きと活動し、明るい未来の光が降り注ぐ老人クラブ……。 (都筑 健一)

### お知らせ

「みらいふる鎌倉」  
愛称決定記念講演会  
開催決定 !!

講師 旭川市あさひやま  
どうぶつえん  
園長 小菅正夫氏

講演会の詳細は次号「やまもも」第60号(H20.5.20発行)やホームページなどで改めてお知らせいたします。

【旭山動物園】北海道旭川市・旭山動物園は動物園人気が低迷する中、飼育員だからこそわかるユニークな行動展示方法で全国の注目を集めている。冬の時代を乗り越えた動物園再生への道のりは、地域再生の手本ともされている。



五日午前七時、駿河銀行前より出発。浜名湖SAから多賀SA、山陽道く明石大橋く淡路から徳島県へ入り阿波おどり会館へ。同会館で阿波おどり実演を観賞する。踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損ソン、例の余りにも有名なユニモラスで楽しい踊りが、浴衣の裳裾を翻してステーションに艶やかに繰り広げられていきます。鳥追い笠が揺れ、白い顔がほの見える。なまめかしさに誘われる。佳境に入るところには、踊る



### 徳島阿波おどり会館と祖谷かずら橋、金比羅宮、四国霊場・善通寺への旅

リーダーから声がかかりました。「皆様もどうぞ、中へお入り下さい」すぐに手を上げて大村元市議会議長が身ぶり、手ぶりよろしくとけこみしました。昂(すばる)宿よしの泊。宴会では誘われるままにカラオケを一席、これが大いにうけて柄にもなくさらにひと声、高らかに歌いあげて割れるように拍手を浴びて幕。

翌六日大歩危(ほけ)へ。人家まばらな田舎道路を祖谷(い)や(の)のかずら橋へ疾駆する。片側は山が迫り、一方は目もくらむ断崖のはるか下を波濤(なみだ)が岩を嘔む。広場へ着き、かずら橋へ歩く。つり橋のはるか下を岩が突出し溪流が騒いでしぶきが足元から吹き上げるような気がした。冷汗三斗の思いで渡り切った。ヤレヤレ。

琴平では名物のさぬきうどんの昼食で過ごし、金比羅宮へ。本宮までは二五メートルの登り。炎天下に杖と陣笠を借りて一、三六八段へ挑む。足に自信が乏しい人は中段までは力こに揺られて横に上がるが頂上までは力こは行かないよ

うである。ガイドが適宜休憩をはさんで故事来歴を語る。二十七名が完登、最高齢者九十四歳の由。祭神は大国主命といわれる。旧国弊中社。境内にはカンピール二〇〇万個を要したヨットが飾られていた。一息入ってから下りるが、汗が絞るようであった。琴平温泉は「桜の抄」へ泊まる。



最後の七日は善通寺(八十八ヶ所霊場、弘法大師誕生地)。かつて第十一師団、乃木大将の師団司令部設置の旧跡である。感慨を新たにして黙祷を捧げる。若いガイドはよく勉強していたようであったが、年配の方々から聞かれるのかもしれない。瀬戸大橋を渡り、多賀SA、浜名湖を経て鎌倉へ。

台風と豪雨に襲われていた南関東のニュースが間断なく入ってきていたが、幸い良い天気にも恵まれていた日程であった。

(都筑 健一)



### シニア男性料理教室讃

二階堂白寿会 安川 毅

「男子厨房に入ることなかれ」という言葉を知っているだけで、年齢がわかる。戦後の子どもは、学校給食のお手伝いや社会科の授業を通じ、男女の境界が次々とはずされ、興味があればどちらの分野にも立ち入れるようになった。料理もその一つで、コックさんに魅力を感じ、退職したら料理でも習おうかという男性が増えてきたのも不思議ではない。

私も定年を迎えた時、市の生涯学習教育の講座から

「料理教室」を選択した。

夢沼先生のきめ細かい指導のもと、同じ釜の飯を食べる仲間と十年たち、受講回数も百回をこえた。この間、奥さんが亡くなったたり、入院されたりした人は、「料理を習ってよかったとつくづく思う。おかげで私の株もぐんとあがったよ」と感謝している。家ではまだまだ奥さんまかせの人が多いが、なかにはピカピカに研いだ包丁をさらしに巻いて持参する熱心な人もいる。私もテレビや雑誌で珍



女性・社会活動部 伊藤 武子

夢の島ヘアフット・コンサート「もったいない市」に湘南の老人クラブとして初めて鎌倉老人クラブ女性・社会活動部が参加しました。

八月十八日(出)、総勢二十一名がマイクロバスで出



発、道路がすいていて早目に夢の島へ着きました。注文してあったお弁当と冷たいお茶をいただいたて、木陰のベンチで広い緑の芝生を



しい料理が紹介されると、早々に作ってみるが、期待した味にならない場合が多い。

家族から「これもお父さんのお得意の料理の一つだったね」といわれるように

なれたらと思う。料理の醍醐味は、食べた人から「美味しい」という言葉を聞いた時だ。かつて高齢者のお誕生会で、われわれの手料理を食べていた時、「これは皆さんのお手造りですか？ 素晴らしいわ、とっても美味しい」と喜ばれ、涙がこみ上げてくるほど嬉しかったことがある。

来年は八十歳になるので、いつまで料理を続けられるか自信はないが、健康のためにも塩分は少な目に、味付けも薄目にするよう心がけましょうという先生の教えを守って、好きな料理を少しでも長く続けていきたいと願っています。

「もったいない市」に参加。青山総務部長が大きな声で威勢よくお客さんと呼びこみ、品物も買いやすく並べて、とても楽しいひとときを過ごしました。

眺めながらゆっくりと食事をし、一服してから熱帯植物園に入りました。めずらしい南国の花を観て「環境教室」で東京都の職員から一時間ほどお話を聞きました。東京都では後三十年でも埋めたとてるところが無くなってしまい、あとは神奈川県と千葉県の海しか無いと言っていました。今こそ私たちは無駄をせず、もったいない精神で日々を暮さなければと心から思わずにはいられません。

次に、いよいよできたてのお揃いのエプロンをして



▲友情の証に色紙を交換

## うこそ も鎌倉へ！

### 第2回足利市・鎌倉市老人クラブ連合会交流研修会

5月17・18日、足利市老連から23名を鎌倉市へ招き、第2回交流研修会が行われました。



和賀江島をはじめ鎌倉の名所をご案内！



式典のもよう



石渡市長も応援にかけつけてくれました



「きめ細やかな接待を受け嬉しい」とは足利市老連のみなさん。親睦が深まった2日間となりました。



和賀江島をはじめ鎌倉の名所をご案内！



◀▲光明寺法主の講話に耳を傾ける

### 社協からのお知らせ

## あなたが主役の 地域ふくし



●ご存知ですか？  
社会福祉協議会  
(社協) のこと

社協は「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をすすめるために、地域のみなさんやボランティア・福祉・保健等の関係者、行政機関の協力を得ながら共に考え実行していく民間の社会福祉団体です。

民間組織としての「自主性」と広く住民のみなさんや社会福祉関係者に支えられた「公

●鎌倉市老人クラブ連合会と社協の関係は？

老人クラブ連合会は社協の第六種会員（社会福祉を目的とする法人・団体）として、社協と協働で地域福祉推進の担い手としてご協力をいただいております。例えば、鎌倉福祉まつりにおいてバザーの出店や、団体部会員として、

●社協は主にこんなことをしています！

社協では福祉に関するさまざまな相談をお受けしています。どこに相談すればよいかわからない、どのような解決策があるかなど、一緒に考えていきます。その他、詳しい事は社協ホームページをご覧ください。（老人クラブ連合会のリンク先に掲載されています。）

【お問い合わせ先】  
電話（二三）一〇七五

### 俳句

七里ガ浜句会 阿部 弥生

秋の水心のにごり許さざる  
じりじりと信号待ちの秋暑し

七里ガ浜句会 加野 ヨウ

忘れ居し持病再び梅雨長し  
ネクタイを銀座に買ひて秋涼し

七里ガ浜句会 下條 怡生

シヨークース灯つき模食の街晩夏  
人去りて寄り添ふ影や浜晩夏

七里ガ浜句会 佐々木和子

飛火して又飛火して曼珠沙華  
女郎花この道いけばいきつくか



### 川柳

新鎌倉山りんどう会 中久喜たい

蟬しぐれ幾多ぼんぼり灯入れ待つ  
一山を背負ふみやしろ明日は秋

浄明寺寿会 山本 照子

山門の秋深みゆく影を引き  
抱けばすぐ寝る子や峽の星月夜

山ノ内梅鶯会 高橋 斌

蛸は網戸の枠に秋を呼ぶ  
もどずりの花草原はひろびろと

山ノ内梅鶯会 山下カヨ子

片隅の露草の濃き惹かれ寄る  
湯上りの綿の着心地夏夕べ



お十夜の今昔

古く関東一帯の人々は、一年の農作業が一段落した頃、大山へ詣でて健康を祈り、江ノ島弁財天で福を得、衆生済度と五穀豊穡を願って、鎌倉光明寺のお十夜念仏法要のお籠りをして一年の締めくくりをしたという。

光明寺は寛元元年(1243)四代執権北条経時が然阿良忠を迎えて開いた浄土宗の大本山で、円覚・建長同様立派な山門を持つ海辺の開放感のある寺として親しまれている。

幼時から寺の近隣に住みこの縁日の賑わいの前後から、秋の冷たい気配を感じ、酸っぱい青いみかんの出始めの頃と思いこんでいた。

六十年住んだ材木座から離れて十数年になるが、お十夜の今昔について初めて取材しながら書いてみた。

そもそもお十夜とは浄土宗の行事で、正式には「十日十夜別時念仏会」という念仏法要のことである。当初は平安時代に唐から比叡山に伝わり、室

町時代後花園天皇の永享年間(1429～1440)に平貞国が真如堂にこも

って、十日間念仏を勤めたことからじまつた。しかし、貞国の因縁とは直接関係なくそ

れから約六十年後、明応四年(1495)光明寺中興の祖といわれた高

徳の八代目観誓祐宗上人が後土御門天皇の

帰依を受け、勅願寺として十夜法要を永世光明寺で行うことを勅許された。善を修すること十日十夜

なれば諸仏国土において善をなすこと千歳に勝る」という無量寿経典によったものだ。そして法然は、時々日頃の念仏とは少々趣向を変えた〈別時の念仏〉を試み、新たな刺激や感激を得て、また日々の念仏にいそ

しみましよう。十夜法要の大切さを説いている。五十七世義蒼観徹が十夜法要の中興の嘉運を開いたとあるから、法要の遂行には盛衰があったのだろう。現在光明寺は十月十二日から十五日まで縮めて行われている。

こうして光明寺は全国最初の十夜法要の起源の名譽を得、のち日時・長短は同一でないが全国の浄土宗の寺に広まった。

お十夜の間、日頃と違って目につくのは、本堂からやや手前の敷石に尺角の角塔婆が建てられ、この塔頭からは白布で縛った綱が堂

内に導かれ、さらに外陣内陣を経て堂奥正面の本尊阿弥陀の手にまで届き五条の糸(白黒赤紫)がゆわえられている。これは「善の綱(紐)」として、これにつか

まれば阿弥陀の手にひかれて極楽往生できるという。この五色の糸にかかわる信仰が、さらにその光にすが

るといことから、五道(地獄道・餓鬼道・畜生道・人間道・天道)の世界、つまり現実世界の迷いの境涯に

苦しむわれわれを救って下さるということであり、十夜のような縁日に結縁のために参詣の人々に引かせるようになった。

お十夜は僧俗一体の行事という指摘がある。詠唱講の他に各種の講があつて、先の善の綱も「善綱講」が毎年寄進し、「鉦講」もその一つである。五七世義蒼上人は、僧にも庶民にも独特の節まわしの引声念仏(引声阿弥陀経)を広めた

が、念仏の伴奏に双盤という金属製の打楽器が使われる。光明寺ではさらに雲版(青銅または鉄の楽器)と



日中法要行列の全景

太鼓が加わって一層勇壮な鎌倉ならではの気風が反映している。

境内の参詣者と近所住民の耳に流れる双盤念仏の曲調は引声念仏と称されて同時に、「双盤十夜」といわれるほど名高く、これも双盤念仏講中によって期間中毎日三回の法要の合い間山門の下で奉納される。

さて、十二日宵から参列者たちが大殿に集まり、開白法要から三日間諸行事が僧俗一体となつて営まれる。なかでも十三、十四日に行われる二十人もの稚児による法要に先だつ礼讃舞が厳かな中にひとときわ色豊かな情景である。同じ二日間午後一時半、九品寺から法要を修める僧侶・ご詠歌講中等・稚児が日中法要としておねり行列する。

お十夜の名物はお籠りの風景だった。全国から住職と一緒に壇徒がバスで来た頃もあり、近隣三浦・小田原・山北辺りの信徒・諸講中の人たちが、法要・説教

が終わるお寺方が退堂すると、宿所となる開山堂に集結する。持参した重箱を広げ般若湯を傾ける。知らぬ者同士、久々の逢瀬の者がお菜や盃を分けあい談笑、ご自慢の詠歌コーラスが始まり踊りが伴って、それが

さらに高調してくると芸達者が赤や黄の襷をかけてしゃしゃり出て、声自慢の歌い手の俚謡・流行歌に手拍子よろしく、乱舞に近い踊



稚児と詠唱講の行列

りに移っていったという。そして未明、三時頃さすがに疲れて終わりになり誰いうともなく十返のお念仏を稱えてお開きになる。この情景も二十年ほど前から、いつしかお籠りは消えてしまった。

次に縁日の賑わいに移るが最盛時には「見せ物」は総門から山門の間に多い時は四軒入った。サーカスは蓮乗院側で、空中ぶらんこ

と綱渡り曲芸だった。呼びこみは時々場内が見える幕を引きあげ、これからいいところと迷っている客を導き入れる。「親の因果が子に報い」と小人・蜘蛛娘・蛇娘・亀娘と気味の悪い見

せ物小屋でも、年増な女性があだみ声で白い割烹着姿で八角のスタンドマイクでがなり立て、やはり幕を上げ下げして「さあ、いらはい、いらはい、お代は見て

のお帰りに!」と、つられて入っても、五分もすればもう外に出ている。因果の子等は近くの民宿で夜更けには健全な肉体で騒いでい

て、インチキぶりに腹を立てる。

露店は九品寺から本堂まで両側に盛時は二百軒以上並び、バスは九品寺で折返した。いつ頃までだったか裸電球とアセチレンガスの燈火が懐かしい。この二、三日前からこわいお兄さん

たちが来て出店者と地割りをする。どんなてらせんを払うのか? 永年の間に並ぶ品物も変わるが、農家の必需品、大工道具、日頃見馴れない臼、まな板、飯台、刃物、タネ、球根、それに

腰紐、股引、腹掛、地下足袋、襟巻、ガラス細工、南天で作った中気よけの簪、バナナ、瀬戸物の元気のよいたたき売り。食べ物も焼きそば、おでん、鯛焼き、綿菓子、唯一通りの伊勢屋の饅頭が大繁昌で湯気を立てている。

この頃には、植木市中心みたいな覚えがあるが最近は大きな木は売られず、草花鉢が中心のようだった。店もゲームなどが多くなり、すべてで数十軒とか。山門を入ると両側に縁日や祭礼を追って移動する馴染みの乞食のたまりができ、物乞いに忙しい。亀さんというの

が今もって近所の人々が懐しがって覚えているおを食さんで彼もいつしか来なくなった。

以上は「お十夜」の行事の一部を解説し、近隣にす

ーっと住んでいる市老連の三人の女性と「K」が思い出を語り合つてまとめたものである(鎌倉市文化委員会・伊藤武)。

そこで今年のお十夜(十三日)に久々に訪れる。近所に住んでいたのにおねり行列は、はじめてである。九品寺に集結した一回は、七、八メートルに及ぶ十夜

法要行列ののぼりを先頭に赤日傘の導師を中心に、合奏隊十人、紫法衣の高僧十人、稚児二十人、ご詠歌講中約七十人と続き、その後

に黒染めの僧が今年は多く二百人以上の大行列。約四十分かかって本堂前の角塔婆前に着き、導師焼香、ご詠歌のひとつ参道の左右に向かいあい美しい斉唱の最後は南無阿弥陀仏の繰り返しで結ぶ。このあと参列者は他の信者たちと共に堂内に入り、満席の中で稚児

の十種供養があつて、この日の法要が始まった。露店は材木座のバス停から寺まで小鉢中心の植木屋が数軒、寺の入口から約数十軒はなじみの食物屋

(鯛焼き・大判焼き・おでん等)のお面など安価なおもちゃ屋、衣類・かばん・ベルトが一軒ずつ、目立ったのは望遠レンズを持ったカメラマンたち。軒先には、昔々稚児をやった老婆たちが、おねりを眺めていた。

久々に十夜の鉦にうたれけり

(K)

もろもろの愚者も月さす十夜かな(一茶)

光明寺関八州の十夜なり(俳風柳多留)

## 鎌倉の昔の小学校の思い出



戦前、ほとんどの男子生徒はピンタ（平手打ち）でびしゃっ、とたたかれた思い出がある。愛の仕打ちだったのか、それとも……。

《第1小講堂》

十数本はあった。それが二十年頃切り倒され、にがい塩づくりの薪になったのは悲しい出来事だった。

▼二年の時の運動会では、台上にルースベルト・チャール等の張りぼての人形に向かって紅白の球を投げつけ、早く台から落とす競技種目があった。高等科の兄さんは、水車の輪の中で「大」の字になつて回転するのを見て驚いた。

▼戦時下竹槍・薙刀・木刀の訓練とあわせて、校庭の廻りに塹壕を掘り、終戦後は甘藷・南瓜の畑となった。

▼校庭の西側の五十メートル位の御成山は緑豊かで、図画の写生で頂上に行くのが楽しみだった。櫟の木の下側には十メートル位の下級生用の滑り台、図書館側には上級生用の二十メートル超の大滑り台があった。

▼三年生は本校舎より百メートル離れた分教場（今の商工会議所辺り）で過ごすのがきまりで、上級生のいじめもなくのびと過ごせた。御成トンネルは未だ開通せず、今の市役所前のバス停辺りがその裏門で映画「晩春」の舞台の家はこの裏門前の家が使われた。

▼今の校門を入り、右側の現青少年センターを除いて紀伊国屋前の交番から市役所の駐車場の全面積が諏訪の森と池だった。築山・せせらぎあり、皇居二の丸公園の縮小版ともいうべき見事なものだったが中学校舎用地として伐採さ

れてしまった。

## 鎌倉第二小学校（国民学校）

●昭和13年4月（入学）

～19年3月（卒業）

材木座海楽会

伊藤 武子（聴取）

▼女生徒はボイルという一種の薄いエプロンを毎日着て登校した（強く絞った糸で縫った薄地の布を、その裏側にその糸を縫い込んで着る。）。

▼女性には薙刀、男生徒は木銃による訓練、教室では慰問袋に入れる手紙・画を書いた。

▼一年生の時八幡宮舞殿の前の石段で、修身の本を手渡された。八幡様への誓いだったのか。

●昭和19年1月（5年3学期転入）

～20年3月（卒業）

二階堂白寿会 門田 京蔵

▼日本橋の学校は男女一組ずつだったが、第一は計八組と規模の大きい学校で驚いた。

▼すぐゲートル着用、馴れなくてすぐすり落ち、一日何度もまき直す。廻りをみると短ズボンに色違いの布で長ズボンに仕立て直した生徒が目についた。

▼閲兵・分列行進が昼休み交互にあり、初登校日池上校長の視線を追わず、すぐ注意される。

▼東京のおっとりとした授業と違って、質問に対し「ハイ、ハイ」の大勢の挙手がけたたましくその活発さに驚いた。

▼講堂での座禅があり、馴れない正座でしびれて堪えられない。幸なことにすぐあと米俵が講堂に運びこまれ（軍の貯蔵庫として）苦行をまぬがれた。私の転入前からの生徒は三年の時から、ゲートルのまま座らされ往生したといった。

▼裁縫の時間があつた。雑巾作りと、ボタンづけ、これは後々大変役に立った。この時間だけの久保女先生の顔は今、原節子と二重うつしで思い出す。

▼日本橋では制服を着た小使いさんが、モップを持って掃除に当たっていた。第一では年中雑巾がけ、水とから拭き、と掃除掃除の連続の感だった。

▼校庭をとりまく校舎にそれぞれ名称がつけられた。一心・自彊・三省・四海・五穀・六氣（？）・七生・八紘寮だったかと思う。

▼近所の子どもたち（十人位）が一同になって、二つに折りたたんだ防空頭巾を肩かけして登校、校門で歩調とれとなり、奉安殿で最敬礼して各クラスへ。

▼夏に六学年男女三十人位の



池上敏郎先生  
（明治21年～昭和59年）

池上さんは大正15年初代第2小の校長。昭和8年から21年まで第1小校長を勤められた。昭和39年、市内で3番目の老人会を結成、二階堂白寿会会長。41年から14年間2代目市老連会長となり、49年「やまもも」植樹。50年機関紙「やまもも」を創刊された。



幹部合宿訓練があつた。手旗信号・モールス信号・伝令文伝達ゲームなど「巨福山と号す鎌倉五山の第一なり。開基は北条時頼……」があつたが、数人を経た内容はメチャクチャだ。

▼滑川附近で水泳の授業があり、一度も締めたことのないふんどしを地元のH君は丁寧に教えてくれた。地元のクラスの中は本当に親切に私を受け入れてくれたが、近所の年上の商店の子たちには口先だけだがかなりしつこくいじめられた。

▼六年生の夏担任のM先生が教頭でもあり、Y先生（教頭）という当時十七歳で僅か五歳上の兄貴みたいな先生が副担任になった。海軍の艦上訓練時使用の帽子などがぶり飛行機の絵が大変上手ですぐ人気先生となり、数カ月だったが強烈なインパクトを与えた。くすぐるとすぐ赤くなり赤鬼、眞赤野郎、蟹と渾名した。

▼体操は楽しい時間で、徒手体操、戦場運動、騎馬戦、ドッジボール、帽子とり突撃などあつた。体操はきりりと鉢巻をして裸ではだった。

▼級長がいくらとなつても騒いでいる時、突如入ってきたY先生は、全員にピンタをはった。この時六年に入つて転

鎌倉の昔の小学校の思い出

昭和二十年四月一日。割烹着姿の母親に手を引かれて、私は入学式に臨みました。本土空襲が激しさを増していた時でもあり、正装で式に出席している人はいませんでした。私は分厚い防空頭巾を被り、古びた紺の着物、そしてモンペ姿に草履を履いて、他の友だちと共に校庭に並びました。ほとんどの保護者は、子どもたちと同じように防空頭巾を一樣に頭に着けていました。校長先生の話が終わると、それぞれの地区ごとに分かれて、担任になる先生から、親子で明日から始まる授業についての説明を



鎌倉市教育委員会 教育長  
熊代 徳彦

記憶の中の小学生時代

受けました。勉強は各地区にあるお寺を使って行われること、一年生から高等科二年生までの合同授業で行うことなど、細かな話がありました。それから四カ月後の八月、終戦を迎えた時は、嬉しいとか悲しいとかの感情はどの子にもありませんでした。ただ九月からは本校に通って勉強できるというのとだけ話題になっていたので覚えています。二学期からは同じ年齢の友だちと勉強することになり、男子だけのクラスでした。朝と帰りはクラス全員が横一列に並んで奉安殿に向かっ

入してきた医者の子のHは「実際嬉しいね、これで気がひきました」と言った。その後は一人ひとりのピンタはしばしば実行されたが、父兄から一人も苦情はなかったようだ。人間関係ができていたからだ。

▼同期の別クラスでも、M先生の激しいピンタは有名だったようだ。

▼Y先生は正規の海の授業の他に、ふらりと海辺に現れ、私の家に着衣を置いて、近くの誰かれを誘って泳ぎふざけてくれた。

▼卒業の時全員にY先生は、自分のことを書かせたが、十年程前の同窓会に先生は全員の作文を持参、後にコピーし

て配ったが、貴重な文集なので熊代教育長にお見せした。

●昭和23年・24年頃 (3〜4年頃)  
材木座海楽会  
斉藤靖子・高桑繁子(聴取)

▼運動靴の配給があり、その時はいている靴の損傷の激しい人から、また同じ様だと抽籤で与えられた。

▼給食は脱脂粉乳と進駐軍から供与の罐詰、主食はパンにジャム、自宅からの持参もOK。

▼戦後正



規の教員になったY先生(前記)は(23年)、初担任のクラスで女生徒の自宅に寄った。「三年の時先生は、私の家のお風呂に入り私も入った」と話してくれたが、友だちと泳いだ後の情景だろう。

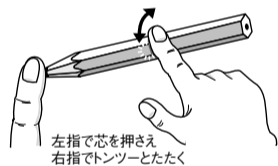
▼二・三年の時は稲村小が発足するまで学重過剰で二部授業だった。

玉縄小学校(国民学校)

●昭和13年4月  
19年3月(全学年在学)  
植木第一紅葉会 田所 泰男

▼十七年頃五年生以上に、軍事基礎教練として手旗信号訓練が授業にとり入れられた。イロハ四十八文字を手腕の動

て一礼することになっていましたが、やがてそれも禁止されました。戦争は終わりましたが、次に襲ってきたのは食糧難で、母親はまだ給食がなかったためにお弁当づくりに苦勞していたようです。いつも弁当は、サツマイモやベッタラ焼きといった粉を捏ねてフライパンで焼き上げたものでした。お米のご飯弁当を持ってくるのは、農家の子どもたちだけでした。殺伐とした世の中でしたが、子どもたちは皆明るく、元気で、活気に溢れていました。着ている物といえはほとんどが兄や姉たちなど上からの払い下げのものばかりでした。喧嘩も毎日のように校内のあちこちで起こり、先生方も止めに入るのに大層でした。その喧嘩も次の



きで一字ずつ相手に伝える通信手段で、周辺の小高い山に二手にわかれ訓練した。また、モリス信号は、トン・ツーというリズムで長短二種の符号を組み合わせて文字を表し無線に使われたもの。その文

日に持ち越すことはなく翌日には何事もなかったかのように仲良く遊んでいた。

昭和三十六年、私は豊かな自然と人情味溢れる人々と田んぼに囲まれた玉縄小学校に、二十二歳の時新米教師として赴任しました。子どもたちはどの学年を持つても純朴そのもので、「よく学び、よく遊べ」を実践しているようでもあり、時折、私は自分の過ごした小学校時代の話子どもたちにしました。勉強の時間よりも真剣にどの子も聞いてくれました。戦争を知らない子どもたちにとって、私の子ども頃のの話は興味をもったのか、もしかしたらできたのかもしれない

字を鉛筆を使って机にたたきながら練習をした。

▼毎月八日を「大詔奉戴日」(開戦十六・二十一・八)といい、高学年は校庭で点呼、軍歌を歌い行進。「歩調とれ!」との号令で必要以上に両手両足をあげ、台上の校長に「右向け右」の号令で顔を向ける。そのあと諏訪神社で君が代斉唱し戦勝祈願という段どりだ。

▼米軍爆撃機が京浜・横須賀を初空襲、そのうち迷彩色をした一機が低空で校上を通過した。

▼運動会でも戦時色が強まり、障害物競争が「敵陣突破」である。

▼十九年講堂が兵士の宿舎となる。(K)

ません。やがて昭和四十年代に入ると玉縄小学校の近くに、二つの私学の中・高一貫校が引越してきました。そのことが契機に、小学校周辺の環境が大きく変わり始めました。それからの時代の趨勢も激しくさらに過激に展開をしていきます。私の生まれ育った昭和という時代は一体どのような時代であったのか。私の歴史の中では本来にべき時代であった、と思っているのです。あの不幸で悲惨な時代を除けば。

熊代徳彦先生(主な教育関係(職歴))

- 昭和14・1 横須賀市で出生
- 昭和36・51 玉縄・第一小学校教諭
- 昭和52・57 市・県教育関係勤務
- 平成3・5 玉縄小学校教頭・校長
- 平成6・8 教育委員会参事
- 平成8・12 富士塚小学校校長
- 平成12・現在 湘南三浦教育事務所所長他鎌倉市教育長

## 鎌倉散歩



覚園寺 一黒地藏一

鎌倉宮に向かって左へ閑静な谷戸の道を十分ほど行くと覚園寺の山門が見えてくる。八月十日、今日は年に一度の黒地藏尊のご縁日で開かれた寺領へ払暁から近隣の人々がひきもきらずお燈明と香を捧げて参詣する。

黒地藏尊（国重文）は別名「火焚き地藏」と呼ばれ、みずから地獄の獄卒に代わって火を焚き罪人の苦をやわらげたために燻されて、いくら彩色を施してもすぐに黒くなってしまふという。覚園寺は建保六年（一一二八年）北條義時が霊夢に感じ入って大倉の地をえらんで薬師堂を建立した。

鷲峰山真言院覚園寺と呼ばれるようになったのは、永仁四年（一一九六年）開基は時の執権北條貞時で智恵慧心を

開山とし、その後北條氏、後醍醐天皇、足利氏と代々の為政者に保護される。

文和三年（一一三五年）足利尊氏の援助で佛殿が復興され、今も天井には尊氏自署の梁牌銘が読みとれる。

この薬師三尊は鎌倉時代を代表する国重文の必見の佛像で堂内には十二神将が三尊を守護している。

薬師堂の奥まりの杉林の下に歴代の和尚の墓塔と、開山心慧、二代目大燈、共に（国重文）の四メートルにも及ぶ二基の大宝篋印塔が苔むしてどっしりと鎮まっている。寺領は国の史跡で自由に入れないがそれだけに自然の深いたたずまいや、特に晩秋の景観は鎌倉随一で十二月中旬の薬師堂から眺める紅葉の色彩のハーモニーの美しさに魅了される。

鎌倉の幾多の寺の中で一番中世の森厳な雰囲気を感じさせる稀有なる名刹であり、いざ鎌倉の時の城塞寺院でもあったのだ。

ひそやかな墓域に文士「村松梢風」の墓が目についたが「鎌倉のおばさん」（村松友規作）も眠っておられるのかしらと、ふと思った。

（浄明寺寿会 山本 照子）

山中さんは明治四十年十二月十一日、東京市京橋区（現・東京都中央区）で生まれる。十五歳で奉公に出て建築業を覚えた。しかし、戦中は大工の仕事がなく、戸塚日立製作所に勤務。その時、十年間一日も休まず出勤し、社長に「めずらしい男だ」と称賛を受けたことが今でも忘

れられない。戦後、松竹蒲田撮影所に入社、七年間大道具を担当した。その後、自営業を始め、友人らとともに瑞泉寺の茶室などを建立。そして建築業三十年継続の善行が認められ、賀陽宮家（旧皇族）から剣を授かり、賞賛を賜る。趣味はカメラ。花や風景を撮影するのが好きで、よく一人旅に出かけては、その日のうちにぶらりと帰ってくる。同様にハミリの腕前もなかなかのもので、撮影した本数は実に七十本超。なにより家族みんなで見る事を楽しみにしながら、撮影に没頭していた。取材当日、今までの作品を見せていただいたが、山中さ



今号の やまももさん

大船田園柏寿会  
山中伝三郎さん(100 歳)

のが好きて、よく一人旅に出かけては、その日のうちにぶらりと帰ってくる。同様にハミリの腕前もなかなかのもので、撮影した本数は実に七十本超。なにより家族みんなで見る事を楽しみにしながら、撮影に没頭していた。取材当日、今までの作品を見せていただいたが、山中さ

んの純真な心の中を垣間みれるような写真ばかりだった。今は愛器が壊れてしまい、撮影していないようだが、これからまた、レンズを通して浮かび上がる山中さんの心を焼いてみせてもらいたいものだ。

また、職業柄が、天性の才能が、手先が器用なこともあり、工作が得意。横須賀線の模型を本物そっくりに作ってしまふ。「好きだからいろいろ考えるんです」、長寿の秘訣はこれだ、と思った瞬間である。

## 原稿募集ー投稿規定ー

会員の皆様からのご投稿をお願いいたします。次号の題材は自由としますので、書き残したいことなどを六〇〇字前後でまとめてください。

短歌・俳句・川柳についてもご応募お待ちしております。

◎送り先は鎌倉市役所高齢者福祉課内老人クラブ連合会事務局（鎌倉市御成町18-10）まで。

◎原稿締め切り 平成20年2月末

◎紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。

## 編集後記

光明寺お十夜のいわれがあまり知られていないようなので、その由来も入れてみました。

私たちの世代の小学校の思い出は戦時色から離れては語れませんが。熊代教育長はわが子の世代をみてくださった方です。今回はご自身の小学校と教師時代の思い出をお寄せくださいました。ありがとうございました。ありがたく厚くお礼申し上げます。

大津先生の半生の画業につきお話をうかがい、家族へのまなざしの深さに改めて感銘しました。今後先生の画業への関心が益々高まりそうです。

## ◆表紙の写真 東身延 本覚寺

鎌倉郵便局裏の本覚寺の境内を市民は当然のように駅への近道として利用している。当初この地は裏鬼門にあたると頼朝が幕府の守り神として夷神を祀った夷堂（吾妻鏡）を建てた。日蓮は佐渡から帰って（1274）一時ここに留まり、のち身延に移った。室町時代になって日蓮の流れを継ぐ一乗日出が天台宗の夷堂に入り、日蓮宗に改め布教を始める。ところが他の宗派の反対にあい、鎌倉公方足利持氏に捕らえられ処刑されそうになったが、夷神のお告げによって許され、持氏は逆に寺を建て寄進し、永享八年（1436）寺の開山が許された。日出が修行時日蓮の教えを受けたいなら、伊豆の宇佐美の鏡澄丸という子に会えと夢のお告げがあり、その子を弟子とする。のちの二代目住職となる日朝上人である。彼は間もなく身延山の貫主にもなり、日蓮の遺骨を本覚寺に分骨し、「東身延」と呼んだ。また日朝が眼病を患うが法華經の功德で快癒、「眼病救済の日朝」の靈驗あらたかな寺とされている。墓所には刀工正宗の墓と石塔があり、正月は商売繁昌を祈願して福娘がお神酒をふるまい、桜と百日紅が見事な花の寺でもある。（K）

## ◆スポンサー各位へ御礼◆

「やまもも」発行に際して協賛いただきました各位に厚く御礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実にも励んでいます。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。みらいふる鎌倉